

Chuo Vision 2025

中央大学中長期事業計画 第2期

中央大学は「實地應用ノ素ヲ養フ」の建学の精神のもと、全学の叡智を結集して伝統を絶えず更新・革新し、高度かつグローバルな知の実践者として実地応用の力を備え、社会の変革の担い手となる人材を育成しつづけてきた。2015年度に策定した中長期事業計画「Chuo Vision 2025」は2021年度に第2期を迎えた。2025年までに中央大学が果たすミッションを掲げ、創立150周年(2035年)へ続く未来に繋げるため、推進していく。

白門50会会長 清野 強

●社会環境の変化

- ・ Society5.0におけるIoTやAI等に代表される先進技術の発展
- ・ 国境、情報のボーダレス化に伴うグローバル化が益々加速
- ・ DX(デジタル・トランスフォーメーション)と呼ばれる大きな流れの中で情報化の時代に対応可能な人材育成
- ・ ダイバーシティの推進やSDGsの目標達成に向けた社会的な期待と果たすべき役割の増大
- ・ 新型コロナウイルス感染防止と社会活動の両立を図るための新しい生活様式の導入
- ・ 日々の生活と社会の産業構造のありようのパラダイムシフト
- ・ 18歳人口の減少と人生100年時代における学びの形態の多様化

●Mission

「グローバルな視野と実地応用の力を備え、人類の福祉に貢献する人材の育成」

●2025年に目指すべき姿

自らの改革を主体的、継続的に実行し、学校法人中央大学の構成員一人ひとりが、教育・研究・社会貢献・国際連携、文化、スポーツ活動等に取り組み、躍動感あふれ、ダイナミックな事業を展開する大学をつくりあげる。変化する大学の姿を絶えず発信し、次代に向けたさらなる発展の原動力とする。

●優先的に取り組むべき課題

創立 150 周年へ と 続 く 未 来 へ

- ① 学問分野の多様性確保とその訴求性の明確化
学部・研究科の改編・創設、移転事業の着実な遂行とキャンパスの文理融合化の推進
- ② 新型コロナウイルス感染症への対策と大学の機能の維持・強化
ICT技術活用、教育の質保証、学修者の視点に立った支援、外的要因の変化に依らず安心・安全な活動ができる環境整備
- ③ 2025年以降を見据えた実態基盤の強化
学生視点での教育研究支援のための組織再編、事業計画遂行のための財政基盤の確立と予算制度の運用見直し

■ DX新しい学びの空間 FOREST GATEWAY CHUOが昨年4月に竣工

2021年4月、自然豊かな多摩キャンパスの玄関口(多摩モノレール駅口)に、新しい学びの空間 FOREST GATEWAY CHUOを開設した。

⇒2面に続く



FOREST GATEWAY CHUO

⇒ 1面から続く

新たな中央大学の顔となる建物として、あらゆる『知』が集合・発信される空間、学生同士や企業、地域の人々との交流拠点として利用される。

随所に視認性、多様性、開放性に富む空間設計がなされており、また、SDGs への取り組みとして、積極的に木材を活用し温かみのある空間とするとともに、標準的な建物と比べエネルギー消費を 50%以上削減するなど、省二酸化炭素に資するよう自然環境にも配慮している。

コロナウイルス禍においては、面接授業と遠隔授業を組み合わせた学びの場を提供しているが、従来の学部ごとに特化された施設に加え、教育のDX（デジタル・トランスフォーメーション）に対応した FOREST GATEWAY CHUO を活用することで、変化を続ける環境における新しい学びを大きく伸展させる。

■ 都心キャンパス整備

● 法学部の都心展開

法学部の都心展開について、2023 年度に茗荷谷（文京区）の新校地へ移転予定である。

→ 法学部の都心移転については、後述します。

● 駿河台記念館の建て替え

駿河台記念館は現在建て替え工事中で、2023 年 3 月までに地上 20 階の新施設が完成予定である。ここには、専門職大学院法務研究科（ロースクール）と戦略経営研究科（ビジネススクール）を移転させ、教育研究施設として展開するほか、学会本部機能、全学的な利用にも供する予定である。今後、関係機関と調整の上、2023 年 4 月からの供用開始に向けて準備を進めて行く。



新駿河台記念館外観イメージ

■ 法学部 1～4 年生が 2023 年 4 月から茗荷谷キャンパス（文京区）に移転

● 新キャンパスで始まる新時代の法曹養成

中央大学は、2023 年 4 月に東京都文京区に茗荷谷キャンパスを開設し法学部（全学年）、大学院法学研究科を多摩キャンパスから茗荷谷キャンパスへ移転する。新キャンパスは東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅から徒歩 1 分である。また、茗荷



茗荷谷キャンパス外観イメージ

谷駅から一駅の後樂園キャンパスに日本比較法研究所も多摩キャンパスから移転する。

中央大学は、1885 年に英吉利法律学校として創設され、法学部はその精神を受け継ぐものとして、法学教育と研究に力を注いできた。法学部の都心展開は創立 130 周年にあたる 2015 年に、その後の 10 年間を見据えて策定した中長期事業計画「Chuo Vision 2025」に基づくものである。

いまここに 135 年以上の伝統と実績を受け継ぎ、「實地應用ノ素ヲ養フ」という建学の精神のもと、引き続き、新たなキャンパスで地球的な視野に立った法的问题意識と法的问题解決能力を備えた人材を養成する。

法学部 3 年間＋ロースクール 2 年間、合計 5 年の一貫教育による新たな法曹養成制度のもと、法学部の都心展開により、ロースクール（新宿区の市ヶ谷キャンパスから 2023 年に駿河台キャンパスに移転）との一体的な運用がこれまで以上に可能となり、法曹教育のさらなる充実を図ることとしている。

● 新時代の法曹養成へ ～法学部と法科大学院（ロースクール）の連携強化

- ・駿河台（御茶ノ水）に移転する法科大学院（ロースクール）とは地下鉄で 3 駅の距離。一貫教育の他、教員の相互授業担当により法曹養成の機能をさらに強化。
- ・法曹、公務員養成機能を担ってきた炎の塔の機能も移転。茗荷谷を拠点とした新たなキャンパスでの一体的な学びが可能に。

● 学びのフィールドはさらに拡大、学びのかたちもより充実

- ・アクセスのよい立地と伝統大学としてのネットワークを活用し、法曹・企業・公務で活躍する実務
- ⇒ 3面に続く

⇒2面から続く

家教員による授業の充実をこれまで以上に図る。また、実務経験を行うインターンシップ等とおして学びの機会をさらに拡充する。

- ・都市部に位置する理工学部（後樂園キャンパス）、国際情報学部（市ヶ谷田町キャンパス）との連携を強化し、文理融合による共同科目を開講予定。総合大学ならではの強みを生かしたシナジーを

創出し、学問の新たな扉を開く。

- ・日本比較法研究所、大学院理工学・法務研究科、研究開発機構などとの新たな研究上のコラボレーションの実現。
- ・初年次教育や外国語授業では少人数制できめ細やかな指導体制を構築。
- ・図書館と一体化したラーニングコモンズの充実により学生の自主的な学びを支援。

◆法学部の都心移転 概要

- ・時 期：2023年（令和5年）4月
 - ・キャンパス：茗荷谷キャンパス
 - ・所在地：東京都文京区大塚 1-58-33（東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」徒歩1分）
 - ・対 象：法学部全学年
- ＊2023年度以降入学生は、1～4年次が茗荷谷キャンパスで学ぶ。
2022年度入学生は1年次のみ多摩キャンパス、2～4年次は茗荷谷キャンパスで学ぶ。



春日通りコリドール
内のピロティ



茗荷谷キャンパス
外観イメージ

茗荷谷キャンパスの外観は、中央大学の前身である英吉利法律学校の赤レンガ造り校舎をモチーフとしつつ、低層階には旧駿河台校舎と同じ尖頭型アーチを取り入れている。教室は遠隔授業やハイブリッド型授業に対応する仕様となるほか、図書館や食堂は、創立者が学んだイギリスのミドルテンプレをモチーフとしたインテリアを採用予定である。大学施設のほか、文京区の地域活動センターや保育所などが併設される予定で、地域との共生、地域への貢献を目指すことにしている。

赤レンガ校舎モチーフ 茗荷谷キャンパスは

◎各学科の特徴

多様なニーズに応える3つの学科とコース制度で学生の学びをサポートしている。3学科共通して、1年次から4年時まで1クラス10～15名程度の少人数制演習科目（ゼミ）で履修する。ゼミのテーマは250以上もあり、積極的な学びを実現する。OB・OGのネットワークを活用して、実務家による講義を積極的に行い、生きた法・政治を学べるのも特徴である。また、他学科の履修も可能で、自分の興味に応じてさまざまな分野の講義を受けることができる。

■ 中央大学法学部及び各学科の特徴

中央大学法学部は、135年以上の歴史と伝統を持つ学部である。これまでリーガルマインドをもつ人材を数多く輩出し、法曹会をはじめ政界・官界・実業界などに強いネットワークを築いている。

伝統を受け継ぐとともに、社会の変化と大学教育に対する要請に応えるため、教育の内容・方法などの改革に絶えず取り組んできた。法律学科・政治学科においてはコース制を導入し、2年進級時にコースを選択できる。また、国際企業関係法学科は激変する国際化社会に対応可能な地球規模のリーガルマインドを養える学修体制となっている。

	法律学科	国際企業関係法学科	政治学科
コース	<ul style="list-style-type: none"> ■法曹コース ■企業コース ■公共法務コース 	—	<ul style="list-style-type: none"> ■公共政策コース ■地域創造コース ■国際政治コース ■メディア政治コース
特徴	<p>基礎的な法的知見と人権感覚や国際的素養を基礎に、紛争を解決するしくみを学ぶ</p> <p>学生一人ひとりのキャリアデザインと関心に応じて選択できるコース制</p>	<p>グローバルな視点を通して法と経済を学び地球規模での課題解決能力を身につける</p> <p>国際系、企業系科目を体系的に配置し国際舞台で活躍する法律家を育成する</p>	<p>歴史や思想のなかから現代社会の課題を紐解き、よりよい公共空間のあり方を構想する</p> <p>学生一人ひとりのキャリアデザインと関心に応じて選択できるコース制</p>
主な進路	法曹資格の取得、公務員	国際企業の法務部門、外交官	公務員、NGO/NPO、ジャーナリスト
入学定員	882名	168名	389名

With コロナのオンラインコミュニケーションの功罪

私が勤務する大学セミナーハウスでは毎年7つの主催セミナーを開催している。そして2019年度までは全てのセミナーが宿泊型の対面セミナーであった。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、2021年度は7セミナーのうち6つがリアルタイムのオンライン開催、1つは会場参加とオンライン参加の同時双方向のハイブリッド型のセミナーであった。

これらのセミナーの打ち合わせもほぼ全て Zoom によるオンラインミーティング。当法人の理事会も評議員会もオンラインで行われ、対面での接触を避ける「非日常」が日常となって、2年以上が経とうとしている。仕事や暮らしにオンラインの活用が広がり、そのメリットを実感しつつある一方、オンラインコミュニケーションにネガティブな印象を持っている人も多いのではないだろうか。

コロナ禍でのオンラインセミナー運営の経験と大学関係者からのヒアリングを通じて得た情報等からオンラインコミュニケーションの功罪について少し考えてみたい。



大学セミナーハウス主催のハイブリッドセミナーの様子

大学教育の現場では授業のハイブリッド化が主流

大学セミナーハウスでは大学の新任教員研修セミナーも開催しているが、今年度のテーマは、「With/After コロナ時代のアクティブ・ラーニング」であった。コロナ禍は、オンライン授業への移行を通して、大学教育における ICT の活用とデジタル化という地殻変動を決定づけ、大学はネット環境と必要な機器備品を整備し、教員は創意工夫に努めアクティブ・ラーニングを更に深化させようとするなど新しい教育手法を模索している。

また、各種調査により、多くの場合、学習意欲の高い学生にはオンライン授業の方が有効であることも見えてきたようである。オンデマンドやオンライン同時双方向の授業によって学習データがデジタル化され、振り返りや協同的な学びへの活用にも道が開かれてきたからであるという。さらにコロナ禍により日本に再入国できない外国人学生や基礎疾患を持った学生などへの対応としてのオンライン授業は有効に機能している。

しかし、各大学で徐々に対面授業が再開されると、オンライン授業では容易に再現できない豊かなコミュニケーションが、学生たちの学びと成長に不可欠であることも再認識されるようになっている。コロ

ナ禍が始まった頃から囁かれていたことだが、対面とオンラインそれぞれの良さを適切に組み合わせた新たな学びを実現する授業の構築が求められ、その優劣を比べるのではなく、両者を融合させた授業のハイブリッド化が教育の現場では主流となりつつある。



ハイブリッド方式で行われる多摩大のゼミ

オンライン授業の拡大による新たな課題-大学設置基準の見直し-

すでに各大学には、単純に2019年度以前のような授業のあり方に戻ることはないという認識が広がりつつある。

ハイブリッド化した大学でオンライン授業の比率が高まった状態が続くと、高等教育行政にとって不都合な事態を招きかねない。大学設置基準の問題である。

大学を設立する際、学生1人当たりの施設面積や施設の内容など、さまざまな物理的な規制が設置基準にはあり、その背景には、対面授業を展開する際に最低限備えておくべき基準が前提となっている。しかし、もしオンライン授業比率が一定の高さで恒常化することになると、現在の設置基準を満たすことが教育の質保証には直結しないのではないかという疑問が出てくる。

世界を見渡せば、米国のミネルバ大学のように、自前のキャンパスではなく、世界中で授業を受け、学ぶ機会を設定しているような大学もある。

2014年3月に開催された「国際教育シンポジウム」でMITのグリムソン副総長は、講演の中で「もう講堂は要らない。知識の伝達はビデオ動画でやればよい。必要なのは小さなラボで、そこで議論することが重要なのだ」と語ったという。

コロナ禍が大学設置基準の見直しの契機になるかもしれない。

オンラインコミュニケーションと脳反応

オンラインでのコミュニケーションが、脳にどのような影響を与えているのかについて、東北大の川島隆太教授が次のように述べている。(朝日新聞掲載記事より抜粋)

東北大と日立ハイテクが独自に開発した脳活動センサーを使って、コミュニケーションに関わる脳活動を見てみると、相手と良いコミュニケーションが

⇒5面に続く

⇒4面から続く

取れている時には、お互いの脳活動の揺らぎが同期するという現象が起きる、つまり脳活動がシンクロする。

顔を見ながらの対面とズームなどを使ったオンラインとで脳活動を比較したところ、顔を見ながら会話しているときは、脳反応の周波数で同期現象が見られるが、オンラインでは、それが一切見られなかった。脳活動がまったく同期していないということは、黙ってぼーっとしている時と同じ状態であると言える。つまりコロナ禍で多用しているオンラインでのコミュニケーションは、脳にとってはコミュニケーションになっていないことが、科学的に分かった。同期しないということは、共感状態にない、相手と心と心がつながっていないということ意味する。つまりオンラインでのコミュニケーションは、情報は伝達できるが感情は共感していないのである。

*オンラインでは脳活動の同期が起こらない理由を川島教授は次の通り説明している。

一つは視線である。通常の会話では、お互い目と目を合わせて会話するのがデフォルトになっているが、オンラインでのコミュニケーションでは、意識してカメラを見て話せば画面を見る相手からすれば視線は合うけれど、画面の視線を見てしまうと、カメラを見ていないので相手にはずれて見える。これが大きな違和感になっていると分析する。特にコミュニケーション場面において、視線が合うことで共感が得やすいということは、心理学を含めて言われていることなのである。

ここ1、2年は、オンラインによる打ち合わせや会議などを頻繁に経験したが、私としては語り尽くし傾聴しているはずなのに十分な交流をしたという実感が伴わないのは、「脳活動の同期」が起こっていない

長短 オンラインと対面授業 ハイブリッドが主流へ

からなのだろう。

失われた「授業の合間」と「コロナ世代」の誕生

オンライン授業は、効率よく学生に知識を伝達し、学生の課題回答力を高める点で効果的な方法ではある。

しかし、オンライン授業では、「授業」が終わればインターネット空間から教師も学生も退出してしまい、相互に雑談を交わす「授業の合間」が存在しない。対面授業であれば、この「授業の合間」に教室の片隅や廊下で学生と教員または学生同士が雑談を交わすことも可能だったが、オンライン授業ではそうした「授業の合間」を作ることが非常に難しい。

1970年代前半に学生生活を過ごした50会の私達にとって、授業が終わった後に喫茶店に行っていたわいのない雑談をしたり、たとえ授業が休講でも中庭の休講掲示板の前で出会ったクラスメイトと立ち話をしたりすることが日常であった。

更に言えば駿河台キャンパスで展開されていたのは「授業」だけではない、サークル室で先輩後輩と談笑したり、神田駿河台の街に出て喫茶店や雀荘で友人達と時間を共有する。時にはクラスメイトと誘い合わせて授業をサボって映画に行ったり、神宮球場に東都大学野球の応援に行ったこともあった。

私達は学生として1970年代にそんな「授業の合間」に学び合い語り合い影響を与え合いながら、社会に出るための準備をしてきた。卒業までの間に経験する幾多の有益な「授業の合間」が、今の学生達から奪われているのだとしたら非常に残念なことである。

「授業の合間」経験が少なく、数年に亘って様々なコロナ禍の影響を受けた「コロナ世代」が新たに生まれようとしている。

誰にでもできる住宅用火災警報器の作動点検

黒須 敏文（防災士）

住宅用火災警報器を寝室及び階段に煙式の警報器を設置することが火災予防条例（2006年6月施行）で義務化されています。

火災警報器は、音声と光により火事を知らせる製品や断続音と光が点滅して火事を知らせる製品があります。

警報器の作動点検を毎月行いましょう。機器は、テストボタンを押すものが「赤点滅して36秒ごとにピーピーピー」となり、ひもを引くものが「正常ですとアナウンス」されます。

火災警報器は、通常監視体制で36秒ごとに光が点滅し、電池切れは、ピッピッピ音と光が同時点滅し、本体の故障は、18秒ごとにピッ音と光が交互点滅する自動試験機能付です。製品の取説をご覧ください、ホームセ



ンターで、電池1000円又は、本体2000円ぐらいで購入できます。

10年を経過した本体は、電子部品の劣化など考えられますので、火災警報器の購入取り換えを推奨します。

昨年はコロナ禍で春の旅行は断念。秋は少々流行が収まったので北海道道南をまわってきました。いつもと比べると旅行者はかなり少なく、地元の人たちも何か元気がない気がしました。

そこで、今回の投稿は、以前とても面白か

道北行

った北海道道北の自転車旅行のことを書いてみました。平成28年の6月から7月にかけてです。いつものように苫小牧にフェリーで着いて走り始めました。札幌を抜けて新十津川経由で留萌へ。さらに北上して稚内。利尻、礼文をまわって来ました。(渡辺 健司)



思いがけず珍しい形の岩に出会える留萌の海岸

まず驚いたのが札幌郊外の豚井店に入ったときのこと。こじんまりしたチェーン店風のモダンな店。アルバイトらしいウエートレスがアイヌと思われる容顔で、かわいい感じのすばらしい美人（私の主観です）。並んで写真を撮らせてもらいたかったが、ちょっと言い出せなかった。残念。その後、内陸を北上し留萌で日本海海岸に出る。さらに北上。海岸線は変化が少ないが時々珍しい岩がある。



初山別キャンプ場の6人

途中、初山別での出来事がおもしろい。夕方キャンプ場に入っていくと数人の年配者がいるので挨拶をする。するとその中の一人が「後で一緒に飲もう」という。それで仲間に加わると私も入られて6人、全員がひとり旅。そして私以外は車

初対面の6人キャンプ場での宴

で移動していてテント泊か車中泊。中の一人がたき火の道具を持っていたので、皆でキャンプファイヤーを囲む。夜11時過ぎまで飲んで、話したり歌ったりで盛り上がる。

互いの名前を居住地で呼び合い

6人ともに住んでいる地名を名前にして呼び合う。岡崎さん（元警察官で真面目）、滋賀さん（話を聞くのがうまい）、和泉さん（関西弁でよくしゃべる）、千葉さん（ガキ大将の雰囲気、ダジャレ多し）、札幌さん（陶芸家、世話やき）、そして私が埼玉さん、全員が60歳過ぎの定年退職組。札幌さんが、ただ一人女性。とても賑やかで楽しい一晩だった。

しかし翌日は、道中の疲労と昨夜の宴会がたたってか、天塩町で持病の皮膚炎がひどくなる。近くの病院に行くがあいにく休み。地元の人に聞いて大きな病院へ行く。いつもつけている軟膏と飲み薬をもらい、ここのキャンプ場で2泊。少し良くなる。

翌日、さらに北上してサロベツ原野に突入。天気予報は曇りのち雨だった。この原野をぬけるのに40kmほど走らなければならない。途中に
⇒7面に続く



⇒6面から続く

は2つ休憩所があるだけ。期待に反して、やはり途中で本降りの雨になる。雨宿りするところが全くなくかなり濡れる。テントを払げて自転車と自分の体にかけて、雨のやむのを待つ。そこは道路の脇で少々広くなったところ。小さなホコラがあり、いろいろな小物が入っている。交通事故か海難事故の慰霊碑のようだった。合掌する。

雨が小降りになり、走り始めてやっと着いたところが稚内のライダーハウスみどり湯。ここは銭湯とライダーハウス、ゲストハウスをやっているところ。ライダーハウスとはオートバイと自転車乗りのための簡易宿泊施設。早速風呂に入る。冷えたからだか熱い湯で生き返る。この女将が名物おばさんで賑やかな人。夜は泊まり客で宴会になることも多い。お開きまで焼酎が飲み放題。天気が良くないので私はここで3泊。1泊1000円なので懐は痛まない。

「こんなに楽しい夜、良い思い出」と言われ

翌々日、雨を見ながら宿のギターで暇を潰しているとギターを持った若い外人旅行者がやってくる。金髪の美人をつれて。彼はギターと歌がとともうまい。イギリスのリバプールから来たという。日本語ができないので難儀だったが、すぐに意気投合していろいろ一緒にやってみる。面白い。二人はアレックスとキャサリンという。

夜の飲み会でアレックスと私で演奏会みたいな感じになる。ビートルズの曲、アメリカのロック、フォーク曲などをやる。特にブルースは定型コード進行なので延々と続く。夜12時過ぎまでやって解散となる。終わってから、聞いていた一人が私に「旅の途中でこんなに楽しい夜を過ご

せて良い思い出ができました」と言う。「いや、こちらこそです」と返す。

宿で英からのカップルと意気投合 // 演奏会 // に



高山植物が咲く礼文島

日本の最北・礼文島で見た絶景

翌日天気が快方に向かったのでフェリーで利尻島に行く。一回りし1泊して、礼文島に行く。するとそこは素晴らしくきれいな島。海岸の丘陵地に高山植物が咲いている。まるで北アルプスのお花畑の中にいるようで、そのすぐ横に海があるのだ。振り返れば利尻富士が海の向こうに見えるという夢のようなところ。日本の最北にはこんなにきれいなところがあるのだと感じ入る。

そしてその日のうちに稚内に戻り、またみどり湯で1泊。翌日長距離直行バスで札幌に出て、さらに苫小牧からフェリーで帰る。

変化に富んだ北海道2週間半の旅でした。

8人の大家族

私は間もなく古稀を迎えます。「人生 70 古来稀なり」長く生きてきたんだなあ～と思いますが、まだまだ元気で日々を過ごしたいと思っています。若い現役の頃は、仕事に追われ生活に追われ気持的にゆとりを感じることなく、自分自身追い込まれたように思っていたのですが、二人の子どもも社会人となりどうにかこうにか責任を果たすことが出来たと思っています。

年をとると楽しいこと嬉しいことが少なくなり、一方で心配事が多くなり不安になりがちです。活動量が減って筋肉量も落ち、精神、心理的に衰弱してしまう～加齢



左から2人目が筆者

に伴って心身が衰えてしまう～そういう状態をフレイルと言うそうです。

私はマンションの管理人のアルバイトを
⇒9面に続く

人生は楽しく

人生百年時代といわれ 100 歳以上の人口は8万人以上となっているこの日本。ヒトの命はせいぜい 120 歳くらいと決まっているので、私を含め 70 歳以上の人はすでに人生の後半を生きていることになる。

どうせ一回きりの人生ならば行きたいところに行き、食べたいものを食べ、飲みたいだけ飲む人生もまたいいか。こんな調子で 70 歳まで突っ走ってきたわが人生。

卒業後、地元の銀行に就職し 15 年で辞めた。親が病気になる親の小さな不動産会社を継ぐためだった。景気

に左右される業種であったが、親と衝突しながらなんとか倒産せずにも仕事を継続できているのは、ほとんど自分の力でなく親の七光りかな。

⇒9面に続く



青春時代の追憶

一浪して昭和 46 年に中大商学部に入った。45 年は予備校に通ったが、予備校の仲間の中には勉強をさぼって 45 年の大阪万博に行った者も何人かいた。でも、私にはその余裕がなかった。

滑り止めとして青学の法学部に入学金と 1 期分の授業料 20 数万円を払ったが、4 年間のトータルの授業料は中大の方が安いからとのへ理屈で、父から中大に入ることの許しを得た。当時青学の年間授業料は 24 万円で、中大は 12 万円だった。青学からは何度かの学費納入の督促の後除籍処分の内容証明が届いた。

なお、中大（新お茶の水）は卒業後就職した霞が関からは千代田線 1 本で 10 分程度だったので、中大の夜学部（授業料は確か 6 万円）で学ぶ者が沢山いた。おそらく日大や明大よりも多かったと思う。職場も、「授業が・・・」

というと業務が忙しくても学校優先を認めていた。ただ、授業を名目に飲み屋に直行する輩も多かった。大学が八王子に移転したため中大卒の後輩が激減したのは残念だ。

大学では月曜日から土曜日まで毎日授業のスケジュールを入れていたが、階段教室の隅にテーブルや椅子で囲った部室をこしらえ、高校の同級生などとルポルタージュ研究会（？、大学未公認）と称するものを立ち上げ、授業の合間には部室に行き缶コーヒーなどを飲みながら仲間と駄弁って時間をつぶした。

夜はコンパと称して同じクラスの仲間や高校の同級生とよく飲み歩いた。コンパ専門のビル（名前は忘れたが）やニュー浅草などにはよく行った。

土曜日の夜から日曜日にかけては同級生のアパートに集まり、徹マンをした。神宮球場が雨天中止の時は弁当が
⇒9面に続く



▲ 落し角
お会いできる日を
楽しみに。
活、皆様に
句、の生
相変わらず毎日絵を描き、時々俳
（淳子）
山気満つる鹿の冷たき落し角

一月下旬新松田の山峡の蠟梅園に吟行に行きました。吟行とは数時間共に同じ場所を散策し、決められた数の俳句を作りその後句会を行うことです。（なお私は句歴二十年余の俳句道楽者です）この日の参加者は十二名、五句出しました。コロナ禍での句会なので、互いの距離や飲食等いろいろ注意しながら行ないます。

梅林の売店に鹿の落し角が山積みに売られており、どうしても欲しくリュックに背負って帰りました。雄鹿は一年に一度角が抜け落ち、新たな角が前より大きくなって生えてくるそうです。（落し角、春の季語です）これが重くてびっくり。雄闘士の戦いの武器なのですから鉄のように重い。こんなものを頭につけている雄鹿は大変・・・一年一年大きくなる角、年々強大になる各国の軍備。ロシアのウクライナへの侵攻。動物の「さが」とはあまり変わりがないのかもしれないと。

枕辺に置く鹿の角には指輪など飾り、ふと生き物の気配を感じるころがあります。不気味な気配ではなく何か親しい者の気配です。

落し角

尾崎 淳子

⇒8面から続く

しています。住民の方に明るく大きめな元気な声で挨拶をします。声を出すことは心と頭に刺激を与え、元気がでます。

毎週日曜日は、所属しているソフトボールチームのメンバーと練習をします。年に8試合ほど試合をしますが、私がピッチャーなので全敗です。今年こそは勝利したいと思っていますが…。

体と心を元気にして明るく前向きに日々過ごしたいと思っています。ちなみに孫は3人で6歳の男児、



孫のお宮参りで
(後列中央が
筆者)

4歳の女兒、4カ月の男の子。長男夫婦のほか独身の娘に私と妻の8人家族です。賑やかでうるさくて、手がかかって忙しい毎日を過ごしています。

(齋藤 文治・国際経済) = 埼玉県朝霞市

⇒8面から続く

暴飲暴食のせいで、最近受けた健康診断で生活習慣に由来する病気の兆候がでてきており、ジムに通って体を鍛えなおしている。

健康年齢を考えると残された時間を逆算しながら、これからの人生を謳歌したいと思う。

人生は大きな遊び。楽しくなければ人生でない。

【俳句】 夢の世の花の吹雪ぞただ狂え：角川春樹

(高橋 龍一・政治) = 新潟県長岡市



写真は
いずれも夫婦
でスイス旅行の様子

⇒8面から続く

半額(150円)になるので金を集めて球場まで弁当を買いに行った。真夏でクーラーのない部屋に日曜日の夜の分まで弁当を沢山買い込み、糸が引いている弁当を食べさせられたこともあった。神宮球場といえば、4年間のうち確か3回東都六大学野球で優勝し、100円の缶ビールを買い、神宮から大学までのちょうちん行列に参加した記憶がある。

学園紛争の真ただ中の学生生活だったが、本館中庭で毎夕赤ヘルと民青のヘルメットを被り手拭いで覆面をした学生がゲバ棒を振り回したり、石を投げあたりしたのを「子供の遊びだな」と思いながら2階の窓から眺めていた。1時間ほど押したり引いたりしたあと、白門の前で機動隊が両脇を固めたアーチの中をヘルメットを被った両派の学生が一人ずつ通らされ、ある者はそのまま開放され、ある者は機動隊に連行されていった。でも、騒ぎが収まると構内が静かになり夜間の授業が開始された。

4年間のうち2年時の1回だけ筆記試験があり、あとの3回はレポート試験だった。

誰かが得意科目のレポート(原案?)を作成し、千円で売った。私も法律科目のレポートを作成し売り捌いて酒代の足しにした。購入したレポートは語尾を直したり新たに文章を添付したりしていかにも自分で作成したような体裁にして提出した。学生運動のさ中でレポート試験にならざるを得ないことは教授も承知だったのか、レポートは提出さえすれば余程のことがない限り「良」はくれた。私もそのお陰で4年で無事卒業できた。後に人事担当になって私の採用時の書類を見たが、殆どが「優」又は「良」で、

「可」は欠席が多かった体育実技か語学だけだった。

卒業後も、土曜日は霞が関から皇居を抜けて中大(当時未だ白門の前に生協が残っていた)や明大の生協に立ち寄り一割引きで本を買い込み、イモや(天ぷら屋)やトンカツやで昼食を摂り、人劇(パチンコ屋)や茜壺(喫茶店)で時間をつぶし、湯島聖堂から湯島天神様まで歩き、湯島から千代田線に乗ってアパートまで帰っていた。ときには不忍池の脇を通過して、上野まで歩き上野公園散策や寅さんの映画を見て帰った。

就職数年後に八王子市の出先機関に転勤した。しかしそこはどうしても車の免許が必要となるポストで、当時中央線豊田駅の近くに自動車教習所があった。教習所に通わなければならないと思いながら、ふと生協で本を買った帰りに、私が通う予定の「豊田自動車教習所」のポスターを見つけ、生協事務所で学割で受講の申し込みをした。生協の従業員は、「普通は大学を卒業すると生協も脱退し、出資金の返還を受けるものだけど、よく組合員として残っていましたね。」と言われつつ、卒業保証(本試験終了まで追加料金不要)付き18万円の2割引きの料金を支払い、1か月かけて免許を取得した。なお、料金払い込みと同時に組合員も脱退させられて500円を返金してもらった。後日、自動車教習所での仮免試験に落ちて追加乗車したときに、教官から「中大の学生にしては老けていますね。でもうちの教習所は中大の学生が多いんですよ。」と言われ、そういえば中大の学生は立川や八王子に住んでいる人が多いんだと改めて思った。

(諏訪 博・会計) = 千葉県柏市

私は今年1月下旬、古稀を迎えた。高校を卒業後すぐに社会人として働いており、20歳前でも先輩に誘われて一杯飲む機会は度々あった。飲酒が社会的に認められる20歳から70歳までの50年間、日数にして18,263日を自分なりに評価（中大での評価同様「優」「良」「可」「不可」の4段階）してみた。

結婚するまで独身寮で生活し夜学に通っていたので夜飲みに行く機会は少なかったが、部屋に居る時は先輩や同僚に誘われ飲む機会は結構あった。当時よく飲んでいたのはサントリーレッドやハイニッカなど安いウイスキーである。

20代の10年間は、二日酔いで困った時もあったが酒と無縁の日も多く「良」と評価したい。

その後中堅サラリーマンとして過ごした時期は、職場でプロジェクトを担当するたびに「打ち上げ」「反省会」などの名目で飲む機会が多かった。先輩の中には「この店の改装費用は俺の飲代で全部負担してやったようなものだ」と豪語していた強者もいたが、私も当時は小遣いほぼ全部が飲み代で消えていた。飲物は安いウイスキーから焼酎ブームの流行に乗るようにお湯割りや酎ハイに変わった。ほぼ皆勤賞がもらえるほど通ったお店もあり、小遣いの帳尻はボーナスで何とか埋め合わせていた。

そんな30代の10年間は、飲む機会も増え時には羽目を外したこともあったが概ね許容範囲であり「可」と評価できるだろう。

続く40代の10年間は、まったく休肝日無しが継続し胃袋も給与袋も緊急事態であったと認めざるを得ず「不可」との評価になった。

古稀まで歩んだ18263日 お酒と共に…その「評価」は



最善の一杯を求めて

15年ほど前に人間ドックで不整脈と診断され定期的に通院しているが、医師から「週2,3日は休肝日を設け健康に注意なさい」とご指導を受けながら、休肝日の無い状況を続けている。人間ドックの前日「今夜は飲酒はやめよう」と思う日もあったが、妻に「普段通りの生活習慣を守らないと正確な診断結果がでないよ」と言われ、晩酌のルーティンにはノーアルコールデイは年に10日もない。

ここ数年、病院の医師から「お酒を控えて休肝日を設けなさい」と指導はない。医師から言われるまでもなく飲酒量は減り、昔と比べ「酒に弱くなった」と感じている。お陰様でこれまで健康診断や人間ドックでAST, ALT, γ -GTPなど肝機能の検査は基準値に収まっている。50歳を過ぎてからの20年はそれ以前と比べ家で晩酌する機会が格段に増え、妻の作った惣菜で適量を晩酌で楽しむことが健康に貢献しているのであろう。

妻は「あなたはアルコールなら何でもいいのね」と言うが、その日食卓に並んだ総菜、気候、気分や体調を一応考え、焼酎か、ワインか、又は日本酒、ウイスキーか迷いつつ最善の相棒を選び適量を好みの器に注ぐ。正に至福の一杯の選択である。

少ない日はワイングラス1杯、或いは焼酎のお湯割り1杯でおつもりとしている。気分よかつ肴が良ければ3杯、4杯とお代わりすることもあるが、私は飲んだ量が適量であると思っている。(微笑)

50代の10年間は、妻の舵取りが幸いして「可」を取り戻したと評価させていただく。

お酒の原材料となる穀物や果実が育つ気候風土により醸造方法は異なり、生活スタイルの違いで酒の味わい方も違う。酒が誕生した歴史に興味は尽きないが一人ではつまらない。気の合う仲間ワイワイガヤガヤできる日が待ち遠しい。

60代の10年間は、己の欲する量と適量がだいぶ近くなり「良」と評価したい。

さて18,263日のうち推定であるが飲酒日数は15,750日前後(315日×50年)になるだろう。今も休肝日を設けず晩酌を続け「良」2個、「可」2個、「不可」1個が総括的な結果である。

古稀が過ぎた今、妻と二人で夕食をとる際は適量の一杯をテーブルに置き、人生の黄昏時をゆっくりと過ごしたいと思っている。

これからの10年は「優」を目標としたい。

(櫻井 和仁)=横浜市南区

わたしの近況

◆ 和田 茂男 (理工)

昨年10月に会社を株式譲渡によるM&Aを実施、無事に事業継続を済ませました。これからは長年お世話になっている女房孝行を考えています。

◆ 山下 史雄 (政)

出かけられない昨今、日本ワインに嵌っています。近所のスーパーにソムリエの資格を持つ方がいて専用コーナーもあり、様々な味が楽しめます。つい飲みすぎて。(千葉市)

2021年度「白門50会会員名簿」には233名が登録されています。しかし白門50会の各行事への参加者はせいぜい20名程度です。全国の会員同士で会う機会は中々ありません。

ご自分の近況を「白門50会報」に投稿し、中大の仲間

わたしの近況
原稿を募集

同士で情報交換を密にしてもっと絆を深めませんか。多くの会員に「わたしの近況」コーナーに投稿(40~80字程度)していただきたく、ご協力をお願いいたします。

投稿は毎年1月10日~2月20日頃に受付け、最新の情報を会報に掲載させていただきます。



仲間と祭り

山井 俊昭

箱根駅伝、中大10年ぶりシード権ー祭りと共に元気になろう

白門50会には各分野で活躍する仲間がいる。先日もNHK BSPに長野の宮坂和生さんが出演されていた。タレントの菊池桃子さんに諏訪大社を案内していてちょっと羨ましかった。諏訪大社の御柱祭は、宮坂さんから何度も紹介されていたが、映像で見るとまた格別で、厳かな味わいがある。

申と寅の年、7年ごとに行う御柱大祭は、まさに今年がその年に当たり4月から始まるそうだ。宮坂さんとは長引くコロナ禍で、もう何年もお会いできていないが、幹事会、忘年会、ホームカミングデーには遠くからよく顔を出してくれる。会の締めでは無理なリクエストにも気軽に応え、木やりを披露してくれる。彼の高らかな木やりを聞くと心底信州の空気に触れたかのように元気が出る。

私も町内会の理事をやって2年になる。コロナ禍で多くの町内会の行事が中止となった。わが町にも御柱祭ほどではないが「まつり」はある。地元の神明社では、毎年夏祭りがあり神輿が出たり花火が上がったりする。他からの転入者もこと祭りとなると賑わいに誘われて参加する。そんな親睦行事の中止は地域の連帯や共同作業を難しくする。自助、公助、共助のうち、まさに「共助」を担うのがご近所様だ。隣近所のお付き合いが災害や困った時に頼りになる。そんなことは重々分かっているはずだが、地域の連帯への意識はまだ浅い。

災害時には何かしら誰かの手助けが必要な人がいる。手挙げ方式でリストを作ったものの、それに対応するスタッフも十分とは言えない。出入りの激しい賃貸物件には地域活動に何の興味を

示さず、スマホ片手に何事もこなしてしまうZ世代が多くなり楽な方へ楽な方へと流れていく。地域活動には目もくれないのがなんとも歯痒い。

箱根駅伝は我らの祭り

シード権復活まで10年かかった。その間に我々のコミュニティも壊れはしなかっただろうか？毎年正月は箱根まで出かけ、往路、復路と「うたゆの宿」の前で応援した。往路応援のあとは笛塚バス停前の「たきのや」で猪鍋を囲んで新年会、ふもと小田原の万葉の湯で体を温め、さらに宴会、朝早くに箱根の山に取って返し、復路の応援をした。わいわいがやがやで新年が始まる。たとえ駅伝の成績が芳しくない時も、鬼に笑われても来年は優勝だと期待する。10年間シードから遠ざかったことで次こそはと、ますます結束を強め連帯が生まれたのではないかな。

今年の箱根駅伝は、2年生吉居君の1区での飛び出しで勢いがついた。山登りでは1年生の阿部君が粘りに粘り6位でゴールした。50会は大学からの要請もあり各自宅での応援になってしまった。久しぶりにじっくりとレース観戦することができた。

今年は初めての試みとして、学会会で、オンライン応援を企画してくれた。毎年沿道で応援している団体の代表等が出演して、スタートからゴールまで応援エピソードを披露しながら中継するという企画で、50会からは清野会長と私が出演した。当日の内容は、YouTubeで公開されているので見ていただければと思う。いつもの応援場所を選手が通るときの出演なので、あっという間に終わってしまった。言いたいことは終わってしまったから気が付くものだ。

今年のわれらの祭りは、上々の出来で終わった。10年ぶりにシード権を獲得し次の目標は優勝だ。再来年100回となる箱根で、メモリアル優勝をしようぜ。

昨年は世界の祭り？である夏季オリンピックがコロナ禍の東京で開催された。感染者数も減らず心配されたが、開いてしまえば日本選手の活躍で大いに盛り上がった。

今年も北京で開催された冬季オリンピックで日本人選手が冬季五輪では最多のメダルを獲得した。人権無視の中国での開催を疑問視していたが、日本人の活躍ですっかり機嫌を直してしまった。

祭りが盛り上がれば、世間も盛り上がる。参加する団体も一緒になって元気になる。長いコロナ禍で、祭りが開けない今、どう元気を出してもらおうかと町内会の理事として、民生委員主催の小さなお祭りの代表として、そして50会の幹事として考え続けている今日この頃だ。

まつりだまつり、わっしょいわっしょい。

TV 番組3本 御柱祭に相応しい年明け



こころよく撮影に応じて下さった菊池桃子さん（中央）

令和4年の幕開きは7年に一度の御柱祭に相応しい年の幕開きとなりました。元旦の木遣り生中継に始まり、地元地方局の御柱特番への出演そしてテレビ朝日系列「旅サラダ」への出演等立て続けに依頼が入り半月の間に私にとって実に貴重な体験が出来ました。収録の様子を含め体験談として投稿させていただきます。

まずは元旦、地元ケーブルテレビによる年末年始の実況生中継番組で上社木落とし坂での木遣り披露があり真っ青に澄んだ空におんべが靡き素晴らしい鳴き初めの年明けとなりました。

1月11日には地元信越放送(SBC)局制作(系列キー局であるTBSでもBS放送で放映)の「ふるさと紀行」の収録があり、約半日の日程で行いました。この番組は一時間の諏訪大社上社・下社の御柱祭のガイド番組で私はSBCアナウンサーと共に御柱曳行路(仮置き場～木落とし坂～川越し場)をガイド案内する番組でした。

標高1300mにある御柱の仮置き場は全面真っ白に覆われ小雪が舞い散る天候の中、整然と

旅サラダでは菊池桃子さんを案内～1200年の伝統にもコロナの影



菊池さんを案内する筆者(左)

並ぶ8本の御柱の壮大さに心踊らされ案内口調もスムーズに進み舞台は木落とし坂へ、雪は雨に変わり寒さで震えながら最大斜度27度の坂の頂上でガイド案内、そして最終の川越し場では宮川の土手に立ち案内後、御柱にかかる想いを語り収録は終了しました。収録終了後アナウンサーとディレクターから「お話慣れていて聞きやすかったです」の一言が収録の疲れを吹き飛ばす一言でした。

1月17日にはテレビ朝日系列「旅サラダ」の収録がありました。今回のゲスト菊池桃子さんは学生時代から縄文時代のファンと言うことで縄文の聖地と呼ばれる諏訪地方を旅する出発地点を諏訪の聖地である諏訪大社上社本宮の参拝の設定で収録が決まったようです。この本宮のガイド案内を私が担当した次第です。

当日、菊池さんはAM9時発の「あづさ」でAM11時には上諏訪駅に着き一時間ほどメイク衣装の時間取りの後、諏訪湖が一望できる立石公園を出発するので本宮境内PM12時半に待ち合わせを確認、心躍らせながら待ち合わせ時間に行くと40分程待ちぼうけ、しかし菊池さんの到着と「お待たせしました菊池桃子です」の一言ですべて忘れるほどのもの言い53歳とは思えない我々世代には永遠のアイドルの登場でした。

収録が始まり菊池さんとのガイド案内は、月並みですが接し

方・もの言い共に優しさが滲み出るようで「夢心地」の30分間でした。収録が終わり妻と3人での写真撮影にも快く応じてくれ最後に私から国宝土偶形の塩羊糞をお土産に渡すと子供のように無邪気に喜んで受け取ってくれました。

因みに29日の「旅サラダ」放映では縄文への導入部分の設定で本当に短時間での出番だったのが若干残念でした。



収録に臨む菊池さん

最後に今年の御柱祭ですが残念ながら昨日(2月22日)上社・下社共、4月の山出し祭の栄光は人力では行わずトレーラーによる運送に決定しました。1200年以上続く御柱の歴史の中で初めての決定です。現在の蔓延防止等重点措置の解除と共にコロナ感染の終息を願い、5月の御柱里曳祭が相応に出来ることを祈るばかりです。(宮坂 和生)